

## 2023 年度地域社会学科小論文（学校推薦型選抜 [公募制（一般枠）]）解答例

### <解答例>

パソコンやスマートフォンは、非常に便利なコミュニケーション・ツールである。スピード感や拡散力は、手紙や電話とは比較にならない。文化庁の世論調査によると、これらの情報機器の普及が「社会における言葉や言葉の使い方」に影響すると答えた人の割合は90.6%だった。

たとえば、私の祖母は手書きの年賀状を送ってくれる。筆ペンで書いた祖母の字は、あて名を見ただけですぐわかる。父は、あて名と新年の挨拶はパソコンで印刷する。自筆で添え書きだけを書いている。私は、高校生になってからはスマートフォン（＝スマホ）で済ませている。「あけおめ！」で新年の挨拶は終わり。世代の違いはあるが、パソコンやスマホの普及は年賀状にも影響を与えている。

小説家の平野啓一郎氏は、ネットの言葉だけでは「日本語がやせていく」と指摘している。言葉がやせるとは、どういうことなのだろうか。「あけおめ」で「明けましておめでとう」を表現してしまうことは、言葉がやせたことになるのだろうか。

多分、「言葉がやせる」ということには、もう少し深い意味があるのだろう。省略形の表現が増えたというような、単純な現象ではないのだと思う。そもそも、スマホの言葉はよく考えて使っているわけではない。すぐに返信することが期待されるので、深く考えせずに相手に送ってしまう。そこで求められているのは、やはりスピードだ。言葉を選ぶことも、いろいろと想像することからも遠ざかる。そのような日常を過ごしていれば、私の思考はだんだんとやせてくるのかもしれない。

選択肢が増えることは、豊かさでもある。対面での会話、電話、手紙、パソコンやスマートフォン。私たちはコミュニケーションの道具を自由に選べるようになった。選択肢は広がったが、結局は便利なものだけに頼りすぎてはいないか。言葉や思考をやせさせてはいないか。そのような問いかけが必要とされている時代なのだと思う。（791字）